

普及活動情勢報告（平成 30 年 7 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

栽培技術の向上を目指して ～「大豊とまと」の現地検討会～



熱心に観察する生産者

6 月 22 日、大豊町の有機トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」では生産者 10 人、JA 職員 1 人、大豊町職員 1 人、普及所 3 人が参加して、生産者全員のほ場を巡回して生育状況を確認しました。

生産者の技術向上を目的として、年 2 回現地検討会を開催しています。普及所は園主から工夫点などを紹介してもらい、積極的に意見交換できるようにしました。

参加者らは「昨年に比べて草勢を強めに管理するようになり、生産者間での生育差がなくなった」などの声が聞かれました。

普及所は、栽培技術が向上するよう、気づきに繋がる活動を支援していきます。

梅雨明け後の高温対策をしっかりとしよう ～米ナスの目慣らし会～



園芸連から出荷規格について説明を聞く生産者

6 月 22 日に J A 土佐れいほく園芸部米ナス部会は JA 本所出荷場で目慣らし会を開催し、部会員 13 人が参加しました。高知県園芸農業協同組合連合会からは、出荷規格の説明があり、普及所は梅雨明け後の高温対策について指導しました。

今年、定植時に地際部がくびれてしおれるフザリウム立枯病が、2 戸の農家で発生しており、栽培終了時に土壤消毒を実施する必要性を説明し、理解されました。

現在、普及所では、低温期に実施する土壤還元消毒を実証しており、その有効性が期待されます。

集落営農って何だろう？～大豊町怒田で集落営農意識について啓発～



集落営農について説明する普及員

6 月 23 日、大豊町怒田集落で集落総会が開催され、参加者 26 人を対象に集落営農について啓発しました。

怒田集落では高齢化によりユズの栽培管理が困難になっており、集落営農組織を作り剪定や収穫作業を協同で行うこと等を提案しました。

住民からは「草刈りが大変」や「組織があればいいが、リーダーになれる人がいない」といった声が出されました。

普及所は、今後も地元の代表者と連携し、怒田集落での集落営農の可能性について検討していきます。

3年後の嶺北地域農業の発展を目指して
～平成30年度版嶺北地域農業振興計画作成のための第1回チーム会～



嶺北地域の農業の将来像を
真剣に協議

6月27、29日に普及所において「嶺北地域農業振興計画」作成のためのチーム会を開催しました。同計画は関係機関で組織された「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」（以下、部会）が嶺北地域の農業振興を目的に定期的に作成しており、普及所は会の運営を支援しました。今回の計画は「農業で稼ぎ暮らせる経営体の育成」をテーマに、担い手の類型別に4チーム体制で検討をすすめ、第1回チーム会では支援対象や目指す姿等について、多くの意見が出されました。

今後もチーム会で検討を進め、平成30年度末の作成を目指します。

キムチを使った商品開発 ～6次産業化支援チーム会～



アドバイスを受ける出席者

7月2日、普及所で6次産業化グループ「本山町キムチ生産組合うれっこ（以下「うれっこ）」」の6次産業化支援チーム会を開催し、「うれっこ」3人、アドバイザー1人、県職員3人が出席しました。

普及所から前年度の取組と今年度の計画について説明し、「うれっこ」から「買取によるキムチの取引を増やしたい」「キムチ商品としてキムチピザの開発に取り組みたい」等の提案がありました。

6次産業化アドバイザーからはピザの商品化と営業許可の必要性や販路についてアドバイスがあり、キムチピザのレシピや試作品づくりを次回チーム会で取り組むことになりました。

普及所は、6次産業化グループや農業者が、6次産業化により所得を向上させる取組を支援していきます。

女性農業者のスキルアップを目指して ～はちきん農業大学第1回嶺北地域講座～



聴講する女性農業者

7月3日、普及所ではちきん農業大学第1回嶺北地域講座を開催し、女性農業者7人が出席しました。

最初に大塚製薬(株)の山田氏が熱中症のメカニズムと対策について講義し、女性農業者から「自宅に居ても熱中症の疑いがある場合は、どうやって判断したらいいのか」等の質問がありました。

次に普及所職員が病虫害と農薬の安全使用について講義し、女性農業者から「農薬の効果的な使い方がわかった」などの意見がありました。

また、アンケートでは両講座ともほとんどの受講者が「講座はわかりやすく理解できた」と答えました。

普及所は、今後も女性農業者の栽培技術や経営管理能力の向上を目指し、支援していきます。

夏期にむけて栽培管理の注意点をおさらいしよう！
～JAカラーピーマン部会目慣らし会～



熱心に話を聞く生産者

7月5、6日、JA土佐れいほく本所・大田口支所でカラーピーマン部会の目慣らし会が開催され、部会員19人が参加しました。
普及所は夏期の栽培管理について指導し、フザリウム立枯病、着果負担の少ない新品種の実証経過、GAPについて情報提供しました。
生産者からはひび割れの発生や害虫による食害等について質問が出され、対策を確認しました。
今後、普及所は収量増加にむけた支援に加えて、腐敗事故の発生を防ぐために、JAと連携しながら生産者に注意喚起していきます。

出荷本番にむけて ～JAミニトマト部会が目慣らし会を開催～



選果機利用時の問題点
(へタ落ち)を意見交換

7月11日、JA土佐れいほくミニトマト部会は、出荷が本格化する前にJA大田口支所で目慣らし会を開催し、農家12人が参加しました。
会では、取引市場や販売先の担当者を交え、出荷規格や今後の販売等について意見交換しました。
普及所からは、今後の栽培管理の注意点や本年度から取り組んでいる国のガイドラインに準拠した県版GAPを紹介しました。
農家からは「GAPでは現状の問題点を確認し、改善に努めたい」、「新たに導入した品種の特性を把握し、増収につなげたい」などの声が聞かれました。
今後普及所では、実証ほ調査や個別巡回指導等を通じて、栽培管理技術向上やGAPの取組を支援します。

酒米品評会上位独占を目指して ～JA土佐れいほく酒米部会が現地検討会～



試験ほ場の生育状況を確認！

7月12日、JA土佐れいほく酒米部会は、土佐町田井で現地検討会を開催し、部会員10人が参加しました。
酒造好適米「吟の夢」の品質や収量を向上させるため、栽植密度について検討しているほ場の生育状況を皆で確認し、普及所から穂肥時期・量、病虫害防除など、今後の栽培管理について説明しました。
生産者からは「実証試験において、疎植区と密植区の違いに生育差は見られるか」「出穂時期、収穫時期はいつ頃になりそうか」などの質問が出され、活発な意見交換の場となりました。
普及所は、酒造メーカーから評価される酒米産地であり続けるため、これからも収穫適期の判断等について支援していきます。

ユズの収量・品質は平年並み？ ～現地巡回指導～



ユズの生育・着果状況

7月10日～13日に土佐町と大豊町のユズの現地巡回指導を行いました。対象は25戸で、各園地の豪雨被害や生育状況を確認し、今後の管理を指導しました。

倒木や落果等の豪雨被害は殆どなく裏年であった前年に比べ、着果は20%程多く、平年並みの収量が見込めました。青果生産者12戸は既に防除や追肥を済ませており、生育は良好でしたが、発芽期と開花期に防除が不十分な一部の園では、品質低下につながるような病や訪花昆虫の被害が発生していました。また、無農薬栽培の13戸については雑草被害や株の枯死に至る幹腐病やカミキリ類の被害が目立ちました。

園地毎に当面の管理を指導し、7月中には再度巡回して対応状況を確認します。